

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 27 年 5 月 1 日現在

機関番号：10101

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2012～2014

課題番号：24653220

研究課題名(和文) 高等学校教師のライフコース研究 - 北海道の郡部・離島を対象として -

研究課題名(英文) A Life course study of high school teachers in isolated districts of Hokkaido

## 研究代表者

近藤 健一郎 (Kondo, Ken'ichiro)

北海道大学・教育学研究科(研究院)・准教授

研究者番号：80291582

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,500,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、北海道の郡部・離島に所在する高等学校の教師を対象として、彼らのライフコースを聞き取りやアンケートによって明らかにし、高等学校教師としての職能成長の具体的過程を解明しようとする一環である。

本研究期間においては、北海道の郡部にある高等学校の教師へのインタビューや北海道内全域の初任期にある高等学校教師およびその高等学校に勤務する経験年数の長い同僚教師へのアンケートなど、主に初任期に焦点をあて調査を行った。

研究成果の概要(英文)：This study is a part of elucidation of the concrete process of the function growth as high school teachers, by means of a hearing and a questionnaire on their work and life to teachers who worked in high school at isolated districts in Hokkaido.

In this present study period, we carried out a survey focused on teachers who are in first term by interviews to high school teachers who worked at isolated districts in Hokkaido and questionnaire to high school teachers in Hokkaido.

研究分野：教育学

キーワード：教師教育 高等学校教師 ライフコース 北海道 へき地

### 1. 研究開始当初の背景

本研究の研究代表者および研究分担者は、北海道大学を卒業・修了して中学校・高等学校教員となった初任者を対象とした調査によって、どのような勤務環境で日々の教育実践を行なっているかを明らかにしてきた。その調査研究により明らかにできたことは、とりわけ郡部・離島の小規模校に勤務する初任者は「教師集団のなかで教師として成長する」という点で困難をかかえていることであった。

本研究は、教師に多様な資質能力が求められている昨今、個々の教師はそのなかでどのように生き、職能成長を遂げているのかという点について明らかにすることにより、さらなる深化を意図したものである。その際、本研究は高等学校教師を対象とする点、また北海道の郡部・離島といういわゆるへき地を対象地域とする点において特徴をもっている。それは、これまでの教師のライフコース研究が対象としてきたのは、主には小学校教員であり(稲垣忠彦ほか編著『教師のライフコース』東京大学出版会、1988年。山崎準二『教師のライフコース研究』創風社、2002年など)、高等学校教員はほとんど対象とされてこなかったためであり、またそれらの研究の対象としてきた地域が長野県や静岡県であったことなども加わって僻地教育という視点はほぼ見られなかったためである。

### 2. 研究の目的

本研究は教師の成長についての仮説を提示することをめざしており、本研究期間においては北海道の郡部・離島の高等学校数校に調査協力を依頼して、その教員を対象とした聴き取りおよびアンケート調査を実施し、北海道の郡部・離島の高等学校教員のライフコースを明らかにすることを目的とした。そのような解明は、教科担任制でありかつ教科の

専門性が明確に求められる高等学校教員を対象とするという学校階梯に応じた特色、また隣接の高等学校まで数十キロメートル離れていることも珍しくない北海道の地域特性に応じた特色をもつであろうことが期待された。

なおこのような対象設定は、決して細分化して小さな議論を展開するためではない。これまでの研究が視野に入っていなかった、あるいは入っていたとしても方法等の関係から対象にすえ得なかったものを対象とし、その実証的研究を行なうとともに、これまでの研究が示してきた教師のライフコース像との相違点を見出し、本研究が比較的研究に発展することも含めて、教師のライフコースの全体的特性を理論化しようとすることを将来的な目的としている。

### 3. 研究の方法

当初の計画では、北海道内の地域特性に応じて4校程度を抽出して対象校とし、当該校の協力を得て可能な限りその全教員に聴き取り調査を依頼する予定であった。しかしながら、その計画は理論的にも現実的にも困難であった。教師への聴き取り調査の前提として、学校およびその地域の調査、さらには聴き取りを可能とする関係の構築こそが不可欠であり、それこそが予定していた調査に優先して取り組むべき課題と判断された。また郡部・離島での教職経験は、むしろその土地を離れた時にこそ意味づけられると考えられることから、教師の人事異動を把握することも必要と考えられた。これらから本研究期間に取り組んだ課題とその方法は以下のようにまとめられる。

#### (1)

本研究期間以前から取り組んでいた北海道大学出身の初任期教員を対象として聴き取りおよびアンケート調査を継続し、北海道内の郡部・離島に勤務する高等学校教師の直

面する困難について、同一校に勤務する教師などとの関係に注目して明らかにすること。

(2)

本研究期間では、北海道の北東部に位置するオホーツク管内の西興部村や興部町などの学校や教育委員会に協力を得て、文献および聴き取り、アンケート調査により、教師が教育活動を展開する基盤となる学校と地域の歴史と状況について明らかにするとともに、初任期の教員を中心にそのライフコースを明らかにすること。

(3)

公開されている北海道の高等学校教員名簿の調査に基づき、人事異動とともに、教職歴1~5年目と思われる教師たちを見だし、あわせてその方々の勤務する高等学校の経験の長い教師たちへのアンケート調査を行ない、同僚教師との相互関係に注目して、初任期にある教師たちの勤務状況等を含むライフコースと力量形成の過程を明らかにすること。

#### 4. 研究成果

本研究期間の成果について、上述した「研究の方法」に対応させて以下のように整理することができる。

(1)

北海道大学出身の初任期にある高等学校教師が直面する特徴的な困難について整理することから、初任期教員の力量形成について「同僚性」のあり方から考察した。特徴的な困難は、( ) 郡部・離島の小規模高校に赴任することが多いこと、( ) そのような初任校では教員数が少ないことに加え、その平均年齢が30歳代と若く、日常的には授業改善の相談ができないこと、( ) 地域に書店がないため、教材研究に必要な書籍等の入手が困難であることなどである。これらの困難性をふまえて初任期教員の資質能力の向上と人間的成長を展望する際、人事配置が重

要な鍵であることを指摘したうえで、同一職場内ではない研究会、教育サークルなどでの「自覚的協働関係」が初任期教員の成長を支えることに注目した。その一例として、北海道内の中規模高等学校に勤務する方が、地域の理科教師の教育サークルに参加し、教科指導での授業づくりのほか、生徒理解や生徒指導にも役立てることができていると認識している事例を指摘した。

2011年3月に北海道大学を卒業・修了したのち、ただちに高等学校あるいは中学校の教師となった38名を対象としてアンケート調査を行なうとともに、そのうちの3名に対して勤務している北海道内の郡部・離島の高等学校において聴き取り調査を実施した。北海道の高等学校教師となった場合、前項( )で指摘したような初任期を迎えることが多く、それゆえに一人で年間の授業を計画、実施できる力量が当初から求められることを改めて確認するとともに、他府県において教職に就いた場合は中規模校以上に赴任する 경우가多く必ずしも北海道のような状況にないことが明らかとなった。

同僚教師との関係についてのアンケート項目「授業準備について、同僚の先生方に相談することはありますか」との問いに、「たいてい自分一人で準備をしている」と回答した方は62.5%であり、とくに小規模校に限れば80.0%と高率であった。ここで小規模校の高率には注目すべきであるが、同時に中規模校以上の場合にあっても54.5%と過半が「たいてい自分一人で準備をしている」と回答したことも見落としてはならない。この結果は、授業を初任期教員が単独で計画、実施しなければならない状況が、必ずしも小規模校に限られないことを示している。とすれば小規模校での授業づくりに関する困難は、特有の学校環境による点を過小視してはならないけれども、同時にひろく初任者一般が直面する課題として位置づけられることが示唆され

ているのである。

(2)

学校統廃合問題が深刻化している現在において、地域社会の担い手育成の現状と課題について、高等学校の存在しない西興部村を対象地域とし教育問題を核として地域調査を行なった。地域教育調査は、中学校3年生10名全員の生活と進路志向に関する聞き取りを実施した。さらに中学校3年生がどのような将来を展望するのかは、比較的年齢に近い若者の動向も大きくかわると考えられるため、村の地場産業である酪農に携わる方、福祉労働に従事する方などにも聞き取り調査を実施した。あわせて、これらの調査を補完すべく、村役場の酪農に関する部署また教育委員会事務局などの機関調査も行なった。

中学校3年生は、全国的な同年齢の中学生と同様に友人関係を維持し、それにかかわりテレビやゲームに親しんでいる一方で、小集団での長期間の密接した関係性が要求する環境ゆえに競争に動員する形で学習の動機づけを調達する都会的な学校生活も送っていない。この両者をあわせて「刺激に乏しい」という表現もできよう。そして村の主力産業である酪農や福祉の労働について、親がそうである中学生以外は全く知らず、肯定的な印象をもつ生徒は非常に少なく、村の良さを発見するような意図的な営みの重要性が示唆された。

なおこれらの町村において、高等学校、中学校、小学校および教育委員会において、それぞれの校長また教育長から学校や地域の状況について伺うとともに、先生方への聞き取り調査も実施し記録化した。現時点でそれを公表してはいないが、今後研究をまとめていく際の具体像を描くものとする予定である。

(3)

北海道全域の高等学校教員のうち、教職歴1～5年目と思われる初任期教員およびその

先生方の勤務する高等学校の経験の長い教師たちへのアンケート調査を実施した。初任期の勤務状況、直面している課題や困難を聴くにとどまらず、同僚教員との相互関係を明らかにしようとする調査である。現在、アンケートを集計中であり、今後論文として発表していく予定である。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 4 件)

近藤 健一郎、「教員養成教育の課題 北海道大学出身初任期教員調査をふまえて」、『北海道大学教職課程年報』第5号、2015年、1～10頁、査読無。

[http://eprints.lib.hokudai.ac.jp/dspace/bitstream/2115/58498/1/AA12514871\\_05\\_57-62.pdf](http://eprints.lib.hokudai.ac.jp/dspace/bitstream/2115/58498/1/AA12514871_05_57-62.pdf)

浅川 和幸、「地域教育調査 2013年度西興部村調査」、『北海道大学教職課程年報』第4号、2014年、15～21頁、査読無。

[http://eprints.lib.hokudai.ac.jp/dspace/bitstream/2115/55005/1/AA12514871\\_04\\_03.pdf](http://eprints.lib.hokudai.ac.jp/dspace/bitstream/2115/55005/1/AA12514871_04_03.pdf)

近藤 健一郎、「北海道大学出身初任期教員の直面している困難から模索する教職課程改善の方途(3)」、『北海道大学教職課程年報』第3号、2013年、1～16頁、査読無。

[http://eprints.lib.hokudai.ac.jp/dspace/bitstream/2115/52586/1/AA12514871\\_3\\_1.pdf](http://eprints.lib.hokudai.ac.jp/dspace/bitstream/2115/52586/1/AA12514871_3_1.pdf)

梅津 徹郎、「道内のへき地・小規模高校に勤務する初任期教員の困難と力量形成について 実態調査から『同僚性』を考える」、『北海道教育学会『教育学の研究と実践』第8号、2013年、63～69頁、査読有。機関リポジトリでの公開なし。

[学会発表](計 1 件)

近藤 健一郎、「教員養成教育の課題 北海道大学出身初任期教員調査をふまえて」、『第15回日本工業教育経営研究会北海道支部研究会、2015年1月8日、札幌

スクールオブミュージック専門学校（北海道札幌市）。

研究者番号：50466439

〔図書〕（計 1 件）

姉崎 洋一・大野 栄三・近藤 健一郎  
編『教職への道しるべ【第2版】』八千代  
出版、2013年、33～45頁（39頁を除く）、  
155～166頁。

(3)連携研究者  
なし

(4)研究協力者  
山口 晴敬（YAMAGUCHI, Seikyo）

〔産業財産権〕

出願状況（計 0 件）

取得状況（計 0 件）

〔その他〕

ホームページ等 なし

## 6. 研究組織

### (1)研究代表者

近藤 健一郎（KONDO, Kenichiro）  
北海道大学・大学院教育学研究院・准教授  
研究者番号：80291582

### (2)研究分担者

青木 麻衣子（AOKI, Maiko）  
北海道大学・留学生センター・准教授  
研究者番号：10545627

浅川 和幸（ASAKAWA, Kazuyuki）  
北海道大学・大学院教育学研究院・教授  
研究者番号：30250400

梅津 徹郎（UMEYSU, Tetsuo）  
北海道文教大学・人間科学部・教授  
研究者番号：60552875

川田 学（KAWATA, Manabu）  
北海道大学・大学院教育学研究院・准教授  
研究者番号：80403765

駒川 智子（KOMAGAWA, Tomoko）  
北海道大学・大学院教育学研究院・准教授